

矢島高等学校におけるコミュニティ・スクールについて

令和7(2025)年度

コミュニティ・スクール導入の経緯

これまで「地域とともに歩む学校」を標榜し
地域と連携した様々な取組の実績がある

地域貢献ボランティア
伝統芸能の伝承保存

しかし

これら既存の取組は、一方からの依頼に
応える形で始め発展してきたものが多い

ボランティアスタッフ要請
鳥海探究の講師

そこで

互いに顔の見える双方向的な協議会を持つことで、
「地域に根ざし、地域とともに歩む学校」のさらなる深化を目指す

「学校力を地域づくりに活かす」⇔「地域力を学校づくりに活かす」

- 地域には若い力が必要：ボランティア等の地域貢献、伝統文化継承や自然保護
- 学校には地域の協力が必要：就職支援、鳥海探究への講師派遣

さらに

校舎一体型中高連携校としてこれら取組に
小中高連携ならではの教育効果も入れたい

異年齢集団の社会性育成
地域課題対応の人材育成

地域や学校の現状

地域

矢島高校の所在する由利本荘市では、市内全ての小・中学校
がコミュニティ・スクールとなっており、今後県立学校とも連携し
地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを目指している。

学校

地域との連携はかなり進んでおり学校独自の教育活動である
総合的な探究の時間「鳥海探究」を通し、校内体制の整備が
進み教職員の意識も高まっている。

テーマ型コミュニティ・スクールとしてのコンセプト

矢島町は旧城下町独自の文化があるが少子高齢化による活力衰退が著しい

矢島高校には地域貢献活動の実績や地域の文化・環境の学習機会がある

「地域の担い手としての貢献活動」と「伝統文化の保存や自然環境保護」を大
きな柱として、学校所在地である矢島町の地域活性化に貢献する

学校運営協議会



熟議のための3つのワーキンググループ

WG1

小中高連携校のスタートに向けて、連携の在り方を協議する
〔ボランティアや生徒会活動の連携、学校行事についての提案〕

WG2

地域の活性化に資する地域貢献活動について協議する
〔地域貢献や学校活性化に向けた取り組みについての提案〕

WG3

地域を素材とした学習の充実について協議する
〔総合的な探究や地歴・公民、理科、家庭科等の授業についての提案〕

学校運営協議会の構成

- 運営協議会委員は学校評議員を母体として、同窓会、PTAや、地元企業人、地域団体(町内会等)の代表者とする。
- 矢島・鳥海・由利3地域の枠組みを考慮して人選する。
- 3つのワーキンググループに4人ずつ配置する。
- 年間3回の全体協議会(6月、9～10月、2～3月)を開催し、その際に各ワーキンググループの分科会を行う。